

浜風 通信

第34号

発行：神奈川県藤沢土木事務所
なさぎ港湾課
住所：茅ヶ崎市汐見台1-7
電話：0467-58-1473

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ex5/kaigan/chigasaki.html>

第21回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

日時：令和6年3月16日 16:00~18:20
場所：藤沢土木事務所汐見台庁舎1階会議室
出席者：委員18名、事務局13名、傍聴者0名

[主な議題]

- (1) 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価
- (2) 養浜環境影響調査の報告
- (3) 今後の海岸保全事業の進め方

○ はじめに

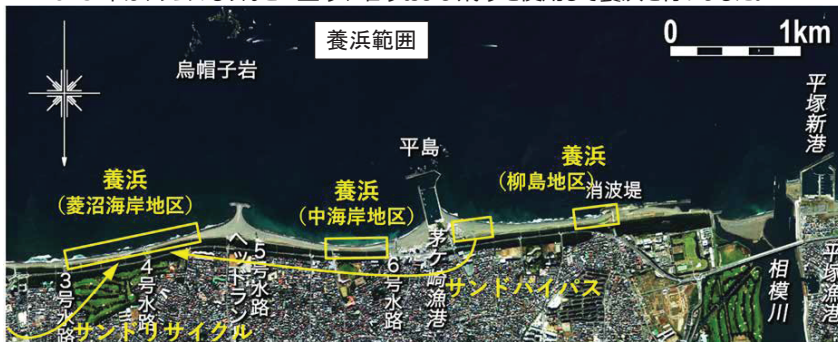
神奈川県では、令和6年3月16日に第21回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会を開催しました。

茅ヶ崎海岸（柳島地区～菱沼海岸地区）における養浜実績、養浜区画での環境調査の結果、今後の事業の進め方等を説明し、報告内容について、意見交換を行いました。

(1) 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価

(1) -1 養浜実績

2023年は、ダムのしゅんせつ土砂、堆砂および飛砂を使用して養浜を行いました。



○ 2006年1月から2023年3月までの総養浜量

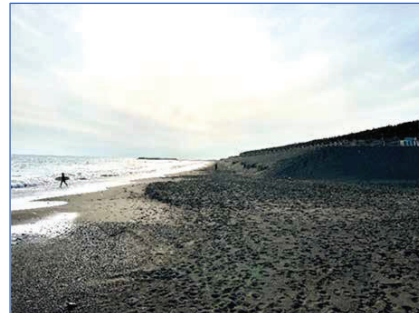
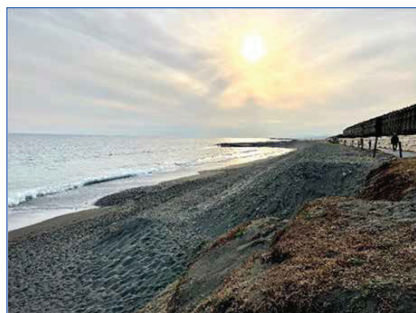
柳島地区	11.0万m ³
中海岸地区	51.7万m ³
菱沼海岸地区	13.9万m ³

○ 2023年の養浜量（実施月）

柳島地区 5,000m³
(2023年5月から6月)

中海岸地区 6,720m³
(2024年1月から3月)

菱沼海岸地区 20,000m³
(2024年1月から3月)



(1) -2 養浜後の地形変化

空中写真から汀線位置を読み取ると、2005年以降、中海岸地区では汀線が前進しましたが、ヘッドランド東側の菱沼海岸地区では汀線が後退しています。（図1）

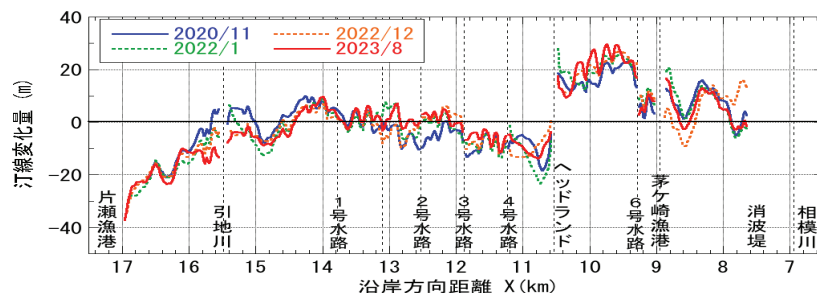


図1 空中写真から読み取った湘南海岸の汀線変化量（2005年基準）

(1) -3 計画浜幅の達成状況と防護機能評価

中海岸地区では、砂浜は計画浜幅まで達成しつつあり、海岸中央部の浜幅は、2023年11月では47.9mまで回復しました。（図2）



図2 環境・利用に配慮した目標海浜像と養浜開始前と現在の砂浜（中海岸地区）

* 浜幅：自転車道法肩～汀線までの距離

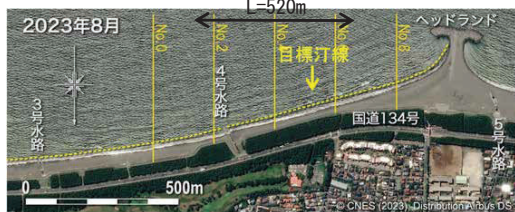
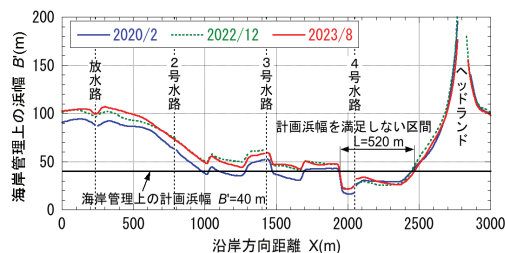


図3 空中写真から読み取った浜幅（自転車道法肩～汀線）の沿岸方向分布（菱沼海岸地区）



菱沼海岸地区では 2022～2023 年に養浜 43,000 m³を行いました、2023 年 8 月で、沿岸方向 520m の区間のみ浜幅を満足していません。（図 3）

(2) 茅ヶ崎海岸の中海岸地区と菱沼海岸地区の海浜状況調査

工事が進められている菱沼海岸地区でのサンドエンジン養浜の進捗状況を観察するとともに、隣接の中海岸地区での通常養浜箇所の状況を調べるため、海岸の状況調査を行いその結果について説明があった。（図 4）



図4 サンドエンジン方式による養浜工事
（左：土砂量検収の盛土、中：養浜砂の運搬、右：重機によるクローラードンプへの積み込み）

(3) 茅ヶ崎養浜環境影響調査

養浜による底質・生態系などの変化を把握するため水質、底質、底生生物調査を毎年行っています。（図 5）
現段階では、茅ヶ崎海岸の底質環境において、懸念材料は見られません。

調査日 1回目 令和5年 9月25日、2回目 令和5年 12月4日

調査概要：

底質の粒度組成は、全体的に細砂主体。St.8とSt.12は粘土・シルトの割合が高い。COD（化学的酸素要求量）、全硫化物は、水産用水基準以下であり、合成指標による底質評価は正常な底質と判断された。



図5 茅ヶ崎養浜環境影響調査地点図

(4) 令和6年度の養浜工事について



図6 菱沼地区の浜幅変化予測

柳島地区、中海岸地区、菱沼海岸地区でそれぞれ養浜を実施する。

柳島地区、中海岸地区は、令和5年度のダムから柳島ストックヤードに搬入した土砂を投入する。

菱沼海岸地区の養浜はサンドエンジン方式で実施する（図6）。

○ 令和6年の養浜量（実施月）

柳島地区	5,000m ³ （2024年5月から6月）
中海岸地区	10,000m ³ （2024年11月から2025年3月）
菱沼海岸地区	22,000m ³ （2024年11月から2025年3月）

主な委員意見（●意見、⇒意見に対する回答など）

- ここ数年台風はなかったのですが、昨年の暮れは非常に風が吹いて、サイクリングロードが全く通れず過去にもないような状態にまでなっていました。堆砂した砂は細かい砂ばかりではなく、中砂的なものも入っているということで、サイクリングロードの堆砂除去と養浜は、県の予算が違うと思うのですが、堆砂した砂を養浜できるのであれば、同じ予算でできるのかなという思いもあります。
⇒ 堆砂した砂は、養浜材として適さないと考えていたが、堆砂したうち半分ほどの砂は粒形が十分大きく、汀線に置くとそのまま残ってくれるような材料だとわかった。堆砂する砂を養浜に使用することは、科学的側面から無駄な行為ではない。
⇒ 令和5年12月頃の強風により、例年になくサイクリングロードに堆砂してしまったため、養浜工事の範囲に隣接している区間では、堆積した砂を海浜に移動させる連携を行った。来年度以降も連携して海浜に移動させるといった方法を検討していく。
- これだけ並々ならぬ努力で砂浜を広くするためにやっているのですが、なかなか市民に伝わっていないことはあります。茅ヶ崎市役所の大ホールに大スクリーンがあるのですが、茅ヶ崎の魅力として海のことやサーフィンのことが繰り返し出ています。そういった場面でも、こういった努力の上に形成されているという案内表示を差し込みでやってはどうか。アピール効果でこの努力を知ってもらいたいです。
⇒ 本来、アピールはポジティブにやるべきである。「浜風通信」というアピールもあるけれども、もうちょっとアピールをしても良い。
⇒ 現地にも養浜の仕方についてPRする看板を設置している。それ以外にも茅ヶ崎市役所とも相談しながら検討していく。